

# 応援、母ちゃん！

## オンライン企画が産休育休を豊かにする

### ～育休イノベーションズとの出会い～

7

たまむら ふみ

玉村 文



#### 産休育休をどう過ごそうか。

ただいま産休育休中で子育てをして2021年度を過ごしています。こうした休みは2

年前に第一子を出産したときも取得してましたので、今回で2回目です。さて、2回目の

産休育休はどのように過ごしているのかが今回のテーマです。

遡ること2年前の産休育休は、妊娠前に資格取得のために講習を受けていたこともあって、受験を経験しました。初めての子育てで思ったように試験勉強は進みませんでしたが、夫や実母の協力もあってなんとか受験し合格することができました。

取り組んでみてわかったことがあります。試験勉強は、正解と不正解がはっきりしていて、受験はゴールが明確です。子育てとは対極にあるものだと感じました。記憶していれば、すぐに正解が出せる。それは心地よさすら感じるものでした。わたしにとっては、子育ての息抜きになっていました。その経験からは、わたしは子育てと両立できるものがある方が、心のバランスがとれることを実感しました。ただし、赤ちゃんの授乳がある期間は細切れ睡眠になるため、睡眠不足から頭がぼーっとして暗記にはハンデになることも実感していました。

もちろん、子ども連れで親同士が集まって交流できる、子ども支援センター（地域によって名称は異なります）には足を運んでいました。そこでは育児情報をシェアするだけでなく、同じような状況の方と話すだけでリフレッシュにもなります。わたしにとっては、自助グループへの参加のようなものでした。育休復帰後も交流が継続するママ友との出会いもありました。当事者同士の交流も、外すことはできない時間の使い方です。

以上のような一人目のときの経験から、今回の育休期間も子育てと両立をする「なにか」を探し始めました。産休前から、ネット等で「育休の過ごし方」と検索しては参考にできるものを探していました。検索してみると、①趣味、②家事や子育て、③

資格取得などキャリアアップ、④仕事復帰準備に分類できる取り組みが紹介されていました。いくつか参考にして、パン作りなどこれまで時間がなくて出来なかったことに挑戦しました。一方で、趣味にもなりキャリアにもつながるような包括的であり、短期的なゴールがありながらも長期的に身につく何かがあるといいなと、その出会いを探していました。

## オンライン企画が

### 産休育休を豊かにする。

ところで、この間のコロナ禍でオンラインを使った事業や企画が発展しています。講演会など受講者が受け身で視聴するものだけでなく、人と交流したり相談することも可能となりました。わたし自身も、産休前に職場でオンライン相談の仕組みを整え、相談者の方と何度かやりとりをさせていただきました。対面とは異なりコミュニケーションが難しくなる面もありましたが、自宅からでも遠方でも気軽に相談することが可能となるなど利点も感じていました。

子育て支援の領域でも、助産師さんにオンラインで相談ができたり、ママ友と交流できるような企画が実施されています。そうした対人援助の仕事のなかにオンラインを活用した取り組みが一定の割合を占めてきたように思います。

オンラインは、子どもが小さいため家から出にくい状況にあったわたしにとっては、家から出ずに社会と接点を作ることができ

る非常に大きなツールです。わたしにとっては、「子どもが小さいから諦めよう」とこれまでならそう思うであろう講演会などへの参加が可能となったことが革命的でした。天候にも左右されず、物理的な距離も飛び越え、子育て中のわたしを含め多くの家から出にくい状況にある方々の社会との接点を作ってくれていると思います。

そのため、育休中は月に1回程度はオンライン企画に参加するようにしています。そのうちの一つで、「子育てとキャリア」がテーマの企画に参加した際に、講師のキャリアコンサルタントの方が、育休は自分をリニューアルするチャンスということをお伝えくださいました。その講師に紹介されたのが、おもちゃ会社ピープルが主催されている「育休イノベーションズ」というプロジェクトです。育休中の親同士が集まって、当事者目線で商品開発をするというのがこのプロジェクトの根幹です。育児をしている真っ最中の当事者だからこそその視点で、ものづくりによって解決を図るという試みに惹かれました。また、わたしはこれまで育休を「休み」として有効に活用すると考えていましたが、そうではなくて「育児中」ということを有効に活用する方法と出会えたと思いました。

## 育休イノベーションズとの出会い

育休イノベーションズとは、乳幼児向けの商品を企画開発するメーカーの株式会社ピープルが実施している事業で、育休中の親が集まって当事者目線で子育ての困った

ことを解決する商品を企画開発するプロジェクトです。2020年に始まったプロジェクトで、4月～9月、10月～3月という半年ごとのプロジェクトです。2020年に0期が起動し、2021年度4月～9月までが第1期のチームが活動していました。わたしは2021年の10月から第2期50名程度のメンバーの一員として活動をスタートしました。

このプロジェクトを立ち上げたのは社員のMさんで、ご自身も4児の母親です。4回の育休を取得し、育児中の「困ったことに解決策がないことはチャンスだ」と育児の経験から商品を企画開発されてきました。当事者視点で商品を企画開発され、その結果、「いたずら1歳やりたい放題シリーズ」や「お米のおもちゃ」など、今では広く知られることになった商品がピープルから誕生しています。こうした商品開発に、素人だけど渦中の当事者が参加することになります。企業プロモーションにもつながっているとMさんは言います。

わたしにとっては、ある課題に対してものづくりを通して解決を図るアプローチが新鮮でした。相談援助の仕事ベースでは、個人・関係性・環境の変容によって「困った」を解決・軽減させることに力を注いできました。しかし今回は、ものづくりで解決・軽減できる経験が積める。とはいえ、人間の営みのなかで活用するのですから、商品で負担が軽減するだけでなく、個人の感情や関係性も変わってくるのではないかなとワクワクしています。また企画開発する際に培われるだろう発想力は、相談援助の仕事にも良い影響を与えるのではないかと期待しています。

参加し始めてまだ1ヶ月ですが、4人~5人のチームでお互いの関心やアイデアを話し合っています。週に1回木曜日の午後全員がオンライン上に集まって全体会をし、進め方や今日の課題、宿題の確認、商品開発にかかわる考え方のレクチャーなどを受けます。後半はチームに別れてアイデアを話し合う。週に1回2時間のオンラインでの集まりのほか、チームLINEを使って、アイデアを話し合ったりします。LINEのノート機能、Googleのアンケート機能やスプレッドシートでの共有、ZOOMでの共有など、こんなに活用する方法があったのかと驚くほど、多機能で便利です。これまでの自分のアナログ度合いに落ち込むほどです。同じチームの企業で営業職をしているメンバーなどは、ITの活用スキルが高く、教えてもらうことばかりです。毎週、オンラインスキルの上達も含めて学びがたくさんあり充実しています。

余談ですが、第2期に参加している総勢50名ほどのメンバーは全員女性です。男性の参加者はいません。男性の育休取得者は年々増えてきて、2020年で12.7%と発表がありました。その12.7%の男性も、取得期間は5日未満が3割ほど、2週間未満が大半で比較的短期の育休です。育休イノベーションズは半年間のプロジェクト。半年間の参加ができる男性の育休取得者はいつごろ生まれるのでしょうか。日本の育休制度は他国と比較すると保障が手厚いと言われて

います。しかしながら、男性の取得率は低い状況です。わたしの夫も育休は一度も取得したことがありません。また改めて男性の育休をテーマに考えたいと思います。

## 育児中という

### 自分の当事者性をサービスに活かす

一人目のときの産休育休中は、「休み」をどのように活用するかという考え方でしたが、今回はそうではなくて「育児中」ということを有効に活用する機会になっています。

対人援助領域で働く人達も、「当事者」と自認する人たちもいます。当事者の視点を持つ人が良いサービスを提供できるかはわからないけれど、当事者だからこそその視点や意見は重要だと思っています。ワン・イシューを解決するために設立されたNPOの代表が、ご自身も同じような課題を背負い、ストーリーを語ることがあります。当事者がもつ「どうしてもこの課題を解決したい」という強い思いはパワーとなり、そのストーリーは他者への共感を呼びます。わたしも、そんな当事者性をサービスに活かす、に体験的に挑戦する半年間になりそうです。